

有機農業の取組拡大に向けた 各地の取組事例集

ビジネス実践拠点づくり編

令和元年度有機農産物安定供給体制構築事業のうち
オーガニックビジネス実践拠点づくり事業



令和2年8月
生産局農業環境対策課

農林水産省

日本の有機農業の取組拡大に向けて

- 我が国の有機食品市場は拡大しており、有機農業の取組面積も拡大しています。
- 新たな方針（令和2年4月30日公表）では、有機農業に係る人材育成、産地づくり、販売機会の多様化、消費者の理解の増進、技術開発・調査等を通じ、有機農業の取組拡大を推進し、2030年に向け有機農業の取組面積や有機食品の国産シェアを増やす目標を設定しています。

日本の有機食品市場規模

年度	2009年	2017年
有機食品市場規模	1,300億円	1,850億円

約4割拡大

※ 消費者アンケートによる推計

日本の有機農業の取組面積

年度	2009年	2017年
有機農業取組面積	16.3千ha	23.5千ha

約4割拡大

※ 有機JAS認証を取得せずに有機農業に取り組んでいる農地面積を含む。

有機農業の推進に関する基本的な方針（令和2年4月改定）

基本的な事項

- 有機農業の取組拡大は、以下のような特徴から農業施策の推進に貢献。
 - 農業の**自然循環機能を大きく増進**し、農業生産に由来する**環境への負荷を低減**、さらに**生物多様性保全や地球温暖化防止等**に高い効果を示すなど農業施策全体及び農村における**SDGsの達成に貢献**。
 - 国内外での需要の拡大に対し国産による安定供給を図ることが、**需要に応じた生産供給や輸出拡大推進に貢献**。
- 有機農業の拡大に向け、農業者その他の関係者の自主性を尊重しつつ、以下の取組を推進。
 - **有機農業の生産拡大**：有機農業者の**人材育成、産地づくり**を推進。
 - 有機食品の**国産シェア拡大**：**販売機会の多様化、消費者の理解の増進**を推進。

推進及び普及の目標

- 10年後（2030年）の国内外の有機食品の需要拡大を**見通し**。
 - < 国内の有機食品の需要 >
1,850億円（2017） → **3,280億円（2030）**
 - < 有機食品の輸出額 >
17.5億円（2017） → **210億円（2030）**
- この需要に対応し、**生産および消費の目標**を設定。
 - 【有機農業の取組面積】
23.5千ha（2017） → **63千ha（2030）**
 - 【有機農業者数】
11.8千人（2009） → **36千人（2030）**
 - 【有機食品の国産シェア】
60%（2017） → **84%（2030）**
 - 【週1回以上有機食品を利用する消費者の割合】
17.5%（2017） → **25%（2030）**

推進に関する施策

- 有機農業をSDGsへ貢献するものとして推進し、その特徴を消費者に訴求していくため、**人材育成、産地づくり、販売機会の多様化、消費者の理解の増進**に関しては、**国際水準以上の有機農業の取組を推進**。
- 調査や技術開発等は、**国際水準に限らず幅広く推進**。

※ 青太字は今次基本方針にて追加された施策

➤ **人材育成**：就農相談、共同利用施設整備、技術実証、**土壌診断DB構築、指導員の育成・現地指導等**

➤ **産地づくり**：拠点の育成、**有機農業に適した農地の確保・団地化、地方公共団体のネットワーク構築等**

➤ **販売機会の多様化**：多様な業界との連携、**物流の合理化、加工需要の拡大、有機認証取得時の負担軽減等**

➤ **消費者の理解の増進**：表示制度等の普及啓発、食育等との連携、**小売事業者等と連携した国産需要喚起等**

➤ **技術開発・調査**：**雑草対策、育種等**、地域に適した技術体系の確立、各種調査の実施と**わかりやすい情報発信等**

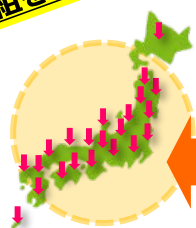
有機農業の面的拡大と有機農業により生産された農産物の安定的な供給体制を構築するため、有機農業者のネットワーク構築や実需者との意見交換等のオーガニックビジネスの実践拠点づくり、販売戦略の企画・提案、自治体間のネットワーク構築等を支援する事業

1. オーガニックビジネス実践拠点づくり事業

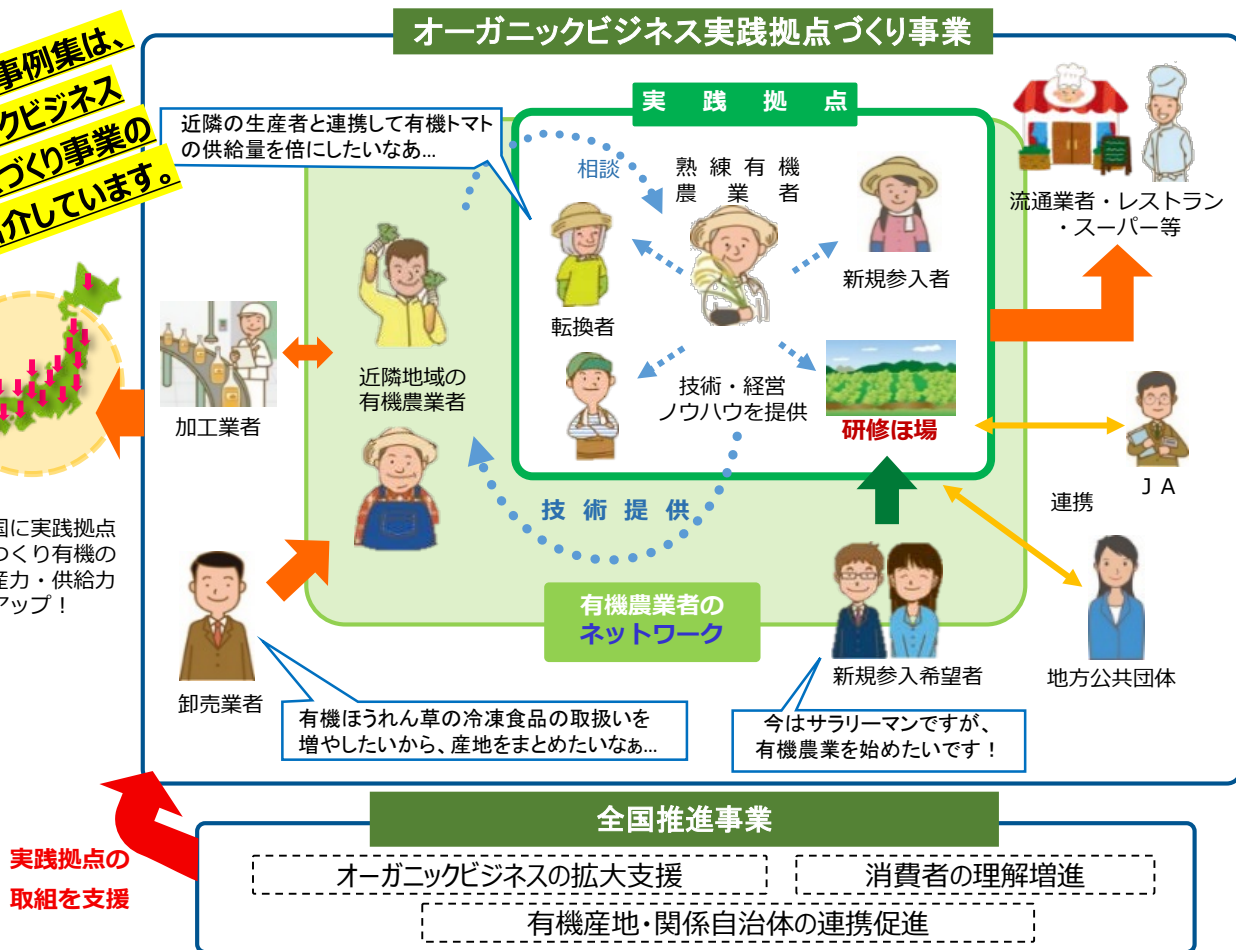
補助率：定額、1/2
事業実施主体：協議会

- ① 有機農業者のネットワーク構築、関連事業者や実需者との意見交換、有機農業者の技術・経営力向上研修会の開催、新規参入者向け研修場の設置の取組等を支援。
- ② 有機農業への新規参入者等に対し、熟練有機農業者が行う現地指導の取組を支援。

※この取組事例集は、
オーガニックビジネス
実践拠点づくり事業の
取組を紹介しています。



全国に実践拠点を
つくり有機の
生産力・供給力
をアップ！



2. 全国推進事業

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

- ① オーガニックビジネスの拡大支援のため、販売戦略を企画・提案するオーガニック・プロデューサーの選定・派遣、オーガニック・プロデューサーによる実需者との商談等を支援。
- ② 消費者等の理解増進のため、有機農産物等の特徴や表示をわかりやすく伝える資料の作成や啓発活動を支援。
- ③ 有機産地・関係自治体の連携を促すため、実践拠点に共通する課題等への対応、研修受け入れ農業者に対する研修会の実施、学校給食への活用などの取組を共有する自治体間のネットワーク構築等を支援。

(参考) 有機農業・有機農産物とは

有機農業

有機農業は、生物の多様性、生物学的循環及び土壌の生物活性等、農業生態系の健全性を促進し強化する全体的な生産管理システムであり、国際的な委員会（コーデックス委員会※注1）が作成した「ガイドライン ※注2」に、その「生産の原則」が規定されています。

我が国では、平成18年度に策定された「有機農業推進法※注3」において、有機農業を「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。」と定義されています。

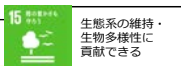
なお有機農業が、生物多様性の保全や地球温暖化防止等に寄与するとの研究・調査結果が公表されています。

※注1: コーデックス委員会とは、消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963年にFAO及びWHOにより設置された国際的な政府間機関。国際食品規格の策定等を行っており、我が国は1966年より加盟。

※注2: 有機的に生産される食品の生産、加工、表示及び販売に係るガイドライン(CAC/GL32-1999)

※注3: 有機農業の推進に関する法律(平成18年法律第112号)

水田における栽培方法と生物群の多様性との関係



生物群 ¹	栽培方法間の比較
レッドリスト植物	慣行 < 農薬節減 < 有機
アシナガグモ属	慣行 < 農薬節減・ 有機
アカネ属	慣行 < 有機
トノサマガエル属	慣行・農薬節減 < 有機
水鳥	有機栽培の水田が多い地域ほど多い

令和元年8月28日(国) 農研機構プレスリリース
「(研究成果) 有機・農薬節減栽培と生物多様性の関係を解明」より

有機農業の地球温暖化防止効果の調査結果



地球温暖化防止効果の調査結果

取組の名称	単位当たり温室効果ガス削減量※ (tCO ₂ /ha/年)	実施面積 (ha)	温室効果ガス削減量 (tCO ₂ /年)
有機農業	0.93	13,471	12,528

※有機農業に取り組んだ場合と、一般的な管理(化学肥料の使用)を行った場合とで、温室効果ガス排出量を比較(引き算)した数値。

環境保全型農業直接支払制度に関する第三者委員会(第11回、令和元年8月22日) 資料より農業環境対策課取りまとめ

有機農産物

有機農産物とは、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法を採用したほ場において、①周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないように必要な措置を講じていること、②は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用しないこと、③組換えDNA技術の利用や放射線照射を行わないこと、など、コーデックス委員会のガイドラインに準拠した「有機農産物の日本農林規格」の基準に従って生産された農産物のことを指します。

この基準に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者は、「有機JASマーク」を使用し、有機農産物に「有機〇〇」等と表示することができます(逆に、認証を受けていない農産物に「有機〇〇」等の表示を行うことはできません)。



令和元年度有機農産物安定供給体制構築事業のうち オーガニックビジネス実践拠点づくり事業 実施地区一覧

- 1 大空町有機農業推進協議会（北海道）
- 2 南陽市有機農業推進協議会（山形県）
- 3 かわにし有機農業推進協議会（山形県）
- 4 会津口ジカルオーガニック農業推進協議会（福島県）
- 5 小川町有機農業推進協議会（埼玉県）
- 6 自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県）
- 7 千葉県有機農業推進協議会（千葉県）
- 8 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県）
- 9 湘南オーガニック協議会（神奈川県）
- 10 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）
- 11 知多の恵み（愛知県）
- 12 ニューファーマーズBLOF生産者協議会（三重県）
- 13 京都オーガニックアクション協議会（京都府）
- 14 兵庫オーガニックアクション協議会（兵庫県）
- 15 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県）
- 16 神戸有機農業者CSA推進協議会（兵庫県）
- 17 丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県）
- 18 多可町有機農業推進協議会（兵庫県）
- 19 笠形地域づくり協議会（兵庫県）
- 20 那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県）



- 21 小松島市生物多様性農業推進協議会（徳島県）
- 22 高知オーガニック（高知県）
- 23 南島原市有機農業推進協議会（長崎県）
- 24 くまもと有機農業推進協議会（熊本県）
- 25 宮崎県有機農業連絡協議会（宮崎県）
- 26 かごしま有機農業推進協議会（鹿児島県）

1 大空町有機農業推進協議会（北海道大空町）

協議会の構成員

大空町、東京農業大学オホーツクキャンパス、生産者（24名）、実需者（丸和油脂，おおぞら三味（株）、合同会社大地のりんご、女満別産業開発公社、株式会社ウエニシ等）

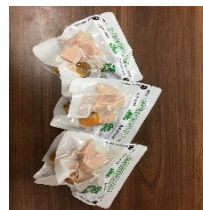
生産概要（2020年3月）

- | | |
|---|---|
| ■ 取組面積
有機農業取組面積：41.6ha
うち有機JAS取得面積：37.7ha | ■ 栽培品目：馬鈴薯、かぼちゃ、飼料作物等
■ 有機農産物の生産量：505トン
■ 構成員の主な取引先：20箇所
（例：生協、スーパー、郵便局、有機酪農等） |
| ■ 有機農業者数：12名 | |

成果（2019年→2020年）

- ・ 有機農業者数の増加：11名（2019年）→12名（2020年）
- ・ 有機農業面積の拡大：40.6ha（2019年）→41.6ha（2020年）
- ・ 有機農産物の販売額：4200万円（2019年）→4300万円（2020年）

有機加工品開発



取組のポイント（取組期間：2019年～）

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・ 有機農業現地研修会の開催（東京農業大学名誉教授 吉羽雅昭氏）
 - ・ 実証圃における現地講習会の開催（（株）大地のMEGUMI有機圃場並びに施設）
上記の取り組みを行ったところ、有機農業者が新たに増加
- 流通・販売の拡大に向けた取組
 - ・ 地元企業と協力して有機加工品（規格外の南瓜を利用した常温保存できる加工品）を開発
 - ・ 販路拡大事業（加工新商品の開発、商談会、イベント等への参加）
→ 有機栽培南瓜の販売単価が増加し、販売額が増加
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・ 栽培技術の導入事例収集及び技術交流による栽培技術の向上
 - ・ オホーツク有機農業セミナーの開催
講師 琴似商店街振興組合 専務理事 松浦 一幸氏
講師 東京農業大学農学部 助教 中塚 博子氏



オホーツク有機農業セミナー



大型トラクター試乗体験

一言アピール！

有機農業体験、各種講習会、セミナー等年間を通して開催しています。興味のある方は是非ともご参加ください。

問い合わせ先
大空町有機農業推進協議会
0152-74-3020

北海道農政事務所
生産経営産業部生産支援課
011-330-8807

2 南陽市有機農業推進協議会（山形県南陽市）

協議会の構成員

南陽市農林課、(農)山形おきたま産直センター、山形おきたま農業協同組合南陽地区稲作部会、(株)おきたま興農舎、(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ、山形県置賜総合支庁農業振興課、山形県置賜総合支庁農業技術普及課、山形おきたま農業協同組合南陽支店

生産概要（2019年）

- 取組面積
有機農業取組面積：18.6ha
うち有機JAS取得面積：18.6ha
- 有機農業者数：15名
- 栽培品目：水稻、にんじん、さといも、ほうれんそう
- 有機農産物の生産量：120トン
- 構成員の主な取引先：生協、米穀店、百貨店、飲食店

成果（2019年→2022年）

- 有機農業者数の増加：15名（2019年）→18名（2022年）※見込
- 有機農業面積の拡大：18.6ha（2019年）→20.7ha（2022年）※見込
- 水稻有機栽培の研修ほ場を4か所設置（ほ場を活用した技術講習会を3回開催）、販路の拡大・強化に向けた取組（実需者や消費者との交流活動・意見交換会）を実施
→2022年までに有機農業の里としての基盤を確立し、有機農業への新規就農者・転換者の増加を目指します。

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機農業者数の増加や栽培技術力の向上に向けた取組

- ・水稻有機栽培の研修ほ場を4か所設置し、除草方法やほ場特性の違いによる生育・収量・品質等への影響について比較検討を行い、栽培管理技術の習得・向上に向けた講習会を開催。
- ・水稻有機栽培の課題である病虫害防除対策や除草技術の向上に向けた講習会を開催したほか、先進地の取組を研修。

■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・南陽市産有機栽培米のPR及び首都圏販路拡大に向けた商談を行うため、8月にオーガニックライフスタイルEXPOに出展。その他、消費者理解の増進のため、農業体験・ほ場観察を通じた消費者との交流活動・意見交換会を行った。
- ・地元飲食店のニーズを把握するためアンケート調査を実施し、オーガニックプロデューサーと地元飲食店を交えた販売戦略の検討会・意見交換会を開催。



長年積み重ねたベテランの知識！
新たな技術に取り組む若手のエネルギー！
農業体験や田んぼの環境保全効果調査を通じた消費者交流活動、学校給食への有機栽培米の供給などに積極的に取り組んでいます。

問い合わせ先
南陽市有機農業推進協議会
0238-40-8310

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

3 かわにし有機農業推進協議会（山形県川西町）

協議会の構成員

やまがた有機農業の匠、山形県有機うまいもん研究会、(有)山形川西産直センター、(有)ファーマーズクラブ赤とんぼ、(農)山形おきたま産直センター、たまちゃんクラブ、ときめきセミナー、川西町認定女性農業者、(株)かわにし森のマルシェ、県立置賜農業高等学校、川西町等

生産概要（2020年）

- 有機農業(うち有機JAS)取組面積 12.4ha（12.2ha）
- 有機農業者数：17名
- 栽培品目：水稻、豆類、そば、もちトウモロコシ等
- 構成員の主な取引先
産直施設、契約販売、ネット直販等

成果（2019年→2022年）

- 有機JAS認証者数：10名（2019年）→11名（2022年）※見込
- 有機農業(うちJAS認証)面積：12.4（12.2）ha（2019年）→14.4（14.2）ha（2022年）※見込
- 有機野菜の研修ほ場を2か所設置（ほ場を活用した技術講習会を2回実施）、オーガニックライフスタイルEXPOに出展し町内産の有機米やはちみつ等販売し、販路拡大に向け取り組みました。
→2022年には、有機農産物の品目の拡充と新規の有機農業者の確保を図るため、町内の県立農業高校と連携し農業者数の拡大を目指します。

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 町内の産直施設を拠点とした販売体制の構築

・2019年度から(株)かわにし森のマルシェと連携し、有機農業者の「顔」が見える販売戦略を構築し有機農産物の付加価値を向上させるため、施策として有機農産物コーナーを設置した。

■ 有機農業への新規参入者の増加に向けた取組

・有機農業に関心のある農業者（町内外）を対象に有機農業に関する基礎講座を年間5回実施した。
・研修ほ場等を活用し、野菜の有機化に向けた研修会を実施した。（新規参入者向けに研修会を実施）

■ 町内にある県立農業高校との連携

・担い手の確保及び在校生と有機生産者のマッチングを目的に、町内の農業高校に研修ほ場を設置した。現在、同校の授業の一環として有機農業に取り組んでいる。



ときめきセミナー
研修ほ場:ぼかし堆肥講習



基礎講座（計5回実施）
講演風景



オーガニックプロデューサー派遣事業（意見交換）



(株)かわにし森のマルシェ
(産直施設)

会長から一言！

これからの有機農業の推進に向け、町内の県立農業高校の生徒にも講演会等に参加してもらいました。
現在は、家庭で育てられる野菜の有機化に注力し、安全安心な農業を普及します！

問い合わせ先
かわにし有機農業推進協議会
(川西町役場 産業振興課内)
TEL:0238-42-6641

（東北農政局生産部生産技術環境課）
TEL:022-221-6214

4 会津口ジカルオーガニック農業推進協議会

(福島県会津若松市、会津美里町、喜多方市、南会津町)

協議会の構成員

構成員総数16名

生産者11名（新規参入者4名、転換者4名、実践者3名）、実需者3名、市町村関係者1名、地域づくり法人役員1名

生産概要（2019年）

■取組面積

有機農業取組面積：3.01ha

うち有機JAS取得面積：0.30ha

■有機農業者数：11名

■栽培品目：ミニトマト、ニンジン、ネギ、ホウレンソウ他

■有機農産物の生産量：31,460トン

■構成員の主な取引先：5～7箇所

(JAあいづよつば、ヨークベニマル、会津青果、JOAA、外地元飲食店)

成果（2018年→2019年）

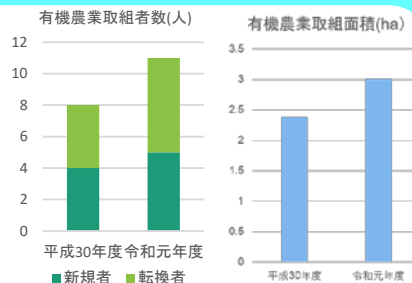
■有機農業の新規参入者：2019年に1名参入！

■有機農業に転換した者：2019年に2名転換！

■有機農業面積の拡大：0.63ha（2018年 2.38ha→2019年 3.01ha）

■有機農産物の販売増加額：265万円

（2018年 1,007万円→2019年 1,272万円）



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機栽培技術力向上のための取組

・植物生理及び土壌構造と堆肥づくりの研修を2019年に4回（8日間）実施したところ延べ162名（うち県外15名）の参加者があり、有機農業参入への高まりと共に、生産性の向上につなげることができた。（今回増加となった新規参入者や転換者含む）

■安定供給体制構築のための取組

・産地の実情と有機農産物の販売動向及び流通について、協議会の構成員が、市場・スーパー・ホテルなどの事業者と意見交換会を9月から11月まで4回実施し、消費者ニーズの理解を深めるとともに、首都圏に販売網を持つ、有限会社新庄最上有機農業者協会を9月に訪ね、今後の出荷体制とネットワークづくりを図った。

・生産者から提供された有機農産物を調理し、学校給食関係者や消費者と11月に試食会を行い、今後の販売のあり方について方向性を見出すことができた。

・地域の生産者や行政機関農業団体及び消費者への有機農業の取組について説明会を行った。



オーガニックを通して、人と人を繋ぎたい。農業者も消費者も、健康で安心した生活ができる、持続的な環境づくりにチャレンジしています！

5 小川町有機農業推進協議会（埼玉県小川町）

協議会の構成員

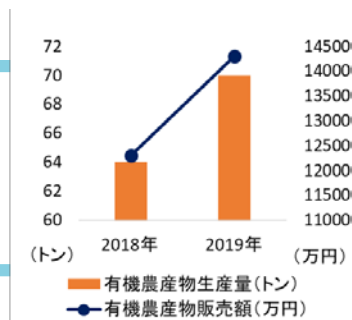
小川町、小川町農産物生産直売組合、小川町農業委員会、NPO法人小川町風土活用センター、わだち会、JA埼玉中央、JA埼玉中央西部営農経済センター、小川町教育委員会、小川町認定農業者連絡協議会、小川町有機農業生産グループ、小川町転作集団促進連絡協議会、埼玉伝統工芸会館、埼玉県東松山農林振興センター

生産概要（2020年3月）

- 有機農業取組面積：53.8ha
- 有機農業者数：31名
- 栽培品目：水稻、麦、大豆等
- 有機農産物の生産量：70トン
- 構成員の主な取引先：4箇所
（生協、スーパー、農協直売所、道の駅等）

成果（2018年→2019年）

- ・ 有機農産物の生産量：64トン → 70トン
- ・ 有機農産物の販売額：12,300万円 → 14,300万円



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■ 有機農産物の安定的な生産体制の構築に向けた取組

- ・ 新規加工品開発に意欲的な農家を中心にドライベジタブル、ハーブ加工品の試作を行い、評価会を開催して調理、流通、販売等の視点から評価し、新商品開発につなげていきたい。

■ 栽培技術・経営力向上のための取組

- ・ 研修ほ場を設置し、有機農業に取り組む希望者に対し作物の植付から収穫までのほ場管理、経営の実習を行った。また、有機農業フォーラムとして種採り講演会・種採り交換会を開始し有機農産物の根幹となる種子の自家採取の重要性、必要性を喚起し自家採取の認知及び自家採取種苗の普及を図り、栽培技術の底上げにつなげていきたい。

循環型有機農家のおいしい野菜！

小川町の有機農家は、地域の資源を活用した自然循環型の農業に取り組んでいます。心をこめていないに育てた季節の野菜を小川町で味わってください！

問い合わせ先：
小川町有機農業推進協議会
0493-72-1221
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



6 自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県いすみ市）

協議会の構成員

有機水稻(JAほか9農業団体)、有機野菜(直売所他5農業団体)、自然環境(環境NPO13団体)、地域経済(商工会ほか12団体)の4部会による協議会を構成。事務局はいすみ市農林課と水産商工課。

生産概要（2020年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：23.75ha

うち有機JAS取得面積（水稻）：6.6ha

■有機農業者数：37名

■栽培品目：水稻、にんじん、

食用なばな、こまつな等

■有機農産物の生産量：85トン

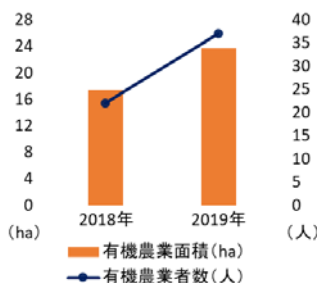
（うち水稻：80トン、うち野菜：5トン）

■構成員の主な取引先：4箇所

（学校給食、直売所、総合スーパー、中食等）

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業者数の増加：22名 → 37名
- ・有機農業面積の拡大：17.41ha → 23.75ha
- ・有機農産物（水稻）の販売額：2,000万円 → 2,600万円



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機水稻の単収向上等に向けた取組（R元年～）

- ・平成29年度に、市内全13の市立小中学校で、全国初となる学校給食全量有機米使用を達成。
- ・令和元年度には水稻の有機栽培を行うほ場でミッドマウント式水田駆動除草機による発芽雑草対策やミネラル、アミノ酸肥料を用いた高品質多収穫栽培を実証し、単収が20%向上。安定多収が見込めることから、令和2年度の栽培面積は9%拡大した。

■有機野菜の供給体制構築に向けた取組（H30年～）

- ・学校給食に有機野菜を求める声が高まる中、令和元年度には有機農業者数の増加や面積の拡大により、昨年度のにんじん、こまつなに続き、じゃがいも、玉ねぎ、長ねぎ、大根、にらの7品目に供給が拡大した。新規・転換者のほ場で土づくり実証を実施し、緑肥の導入や「太陽熱養生処理技術」を実証。

また、各品目別の栽培に係る研修会等を実施するなど、地域における有機野菜の収量や品質、土づくりにかかる技術体系の確立に寄与。



（有機栽培米を食べる児童）

一言アピール！

房総半島の米どころ「いすみ市」で作られている有機米『いすみっこ』は、子どもたちの未来を支えるおいしいお米です。給食の残食も減りました！

問い合わせ先：

自然と共生する里づくり連絡協議会

0470-62-1515

関東農政局生産部生産技術環境課

048-740-0446

7 千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト
木更津市、山武市

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：86.3ha
うち有機JAS取得面積：46.3ha
- 有機農業者数：56名
- 栽培品目：にんじん、アスパラガス、トマト等
- 有機農産物の販売額：14,700万円
- 構成員の主な取引先：30箇所
(生協、スーパー、農協直売所 等)

成果（2018年→2019年）

木更津市において有機米の取り組みが開始され有機農業者が増加した。

- ・有機農業者数の増加：52名 → 56名

取組のポイント（取組期間：2019年～）

- 有機農業の新規参入者の増加に向けた取組
 - ・新規就農者及び転換者等を対象に、**栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会**を実施した。堆肥の利用による土づくりの**栽培マニュアル**を作成し、千葉県全域の有機農業者・新規参入者等に配布するなど、有機農業の担い手を育成。
 - ・南房総市と協業し有機農業への新規取組者を掘り起こすために研修会を計画。
- 有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組
 - ・オーガニックライフスタイルE X P Oへ出展し、有機農業者のアピールを行った。有機農業者とバイヤーのマッチングを行った。展示会やマッチングに参加することで、有機農業者同士の横のつながりもでき、情報交換できた。
 - ・有機米を学校給食へ提供することを目的として、研修ほ場での講習会による栽培技術の確立や資機材の導入の支援、推進体制の整備、教育委員会等との連携に取り組むとともに、構成員会議を4回開催し進捗状況の共有や情報交換を行った。



（意見交換会の様子）

問い合わせ先：
千葉県有機農業推進協議会
03-6821-4219
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

8 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（2020年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：110.9ha

うち有機JAS取得面積：11ha

■有機農業者数：161名

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：生協、スーパー、食品宅配等

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業者数の増加：154名 → 161名
- ・小田原の主要作物である梅、みかん、キウイフルーツの剪定講習会を開催し、新規就農者等の技術力向上を図った。



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

・研修ほ場を設置して、新規就農者たちが水稻、キウイフルーツなど様々な作物を栽培し、生育状況等の違いについて意見交換しながら有機資材、緑肥などを使った栽培方法を学ぶとともに、有機栽培における作物ごとの栽培管理等については、（公財）農業・環境・健康研究所による指導や有機JAS認証に関する勉強会、有機農業を活用した地域活性化の取組事例の紹介等を通して新たに7名の有機農業者を育成。

■流通・販売の拡大に向けた取組

・実証ほ場で栽培した有機のキウイフルーツ、酒米、麦、地元で採れた有機野菜等を使った加工食品を試作。東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係担当者に試作品を試食していただき、生産者を交えて今後のビジネス展開について意見交換を実施。

小田原市内外から約6万人の来場者がある「小田原市農業まつり」において、来場者に野菜や柑橘、ジャムといった加工品などを販売し、好評を得た。



（小田原市農業まつりの様子）



一言アピール！

大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課

048-740-0446

9 湘南オーガニック協議会（神奈川県平塚市）

協議会の構成員

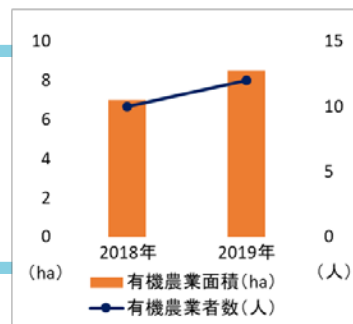
株式会社都実業、有限会社サンシン、農業者、株式会社たんじゅん野菜いかす、NPO法人湘南食育ラボ、株式会社いかす、平塚市農水産課

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：8.5 ha
うち有機JAS取得面積：1.2 ha
- 有機農業者数：12名
- 栽培品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等
- 構成員の主な取引先：約10箇所（スーパー、レストラン等）

成果（2018年→2019年）

- ・ 有機農業者数の増加：10名 → 12名
 - ・ 有機農業面積の拡大：7.0 ha → 8.5 ha
- 農業研修生から新規就農者1号が出たり、研修生が集まってきたりと有機農業への注目が高まっています。



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業の普及・拡大に向けた取組

- ・ 作業の有効性等の把握を目的に、ほ場間やほ場内での土壌分析、収量調査及び栄養分析等の比較調査を実施。土壌診断の結果に基づいた土壌改良（石灰の投入）および緑肥の利用に取り組み、初年度から一定以上の品質・収量を実現できた。今後は、経年で当該調査を実施し「技術の汎用化」を実現し、有機農業の普及・拡大を目指す。

■ 有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・ 有機農業関係者等を対象に、土壌診断や農業経営における考え方、食や種に関する勉強会など幅広い分野における講習会を年5回実施。有機農業者の栽培技術・経営力向上に寄与した。
- ・ 開墾初年度から、土壌改良、緑肥の利用及び連作によるたまねぎの収量の年々アップや栄養価の高いキャベツの収穫など実績があがった。

一言アピール！

たまねぎは初年度単収3.3トン、2年目は単収6トン。3年目は6トンを超えてきそうです。生産量も確保しつつ、なによりも美味しい野菜が広まっていくことを願っています。



問い合わせ先：
湘南オーガニック協議会
080-3672-0802
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



10 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、富山れんげの会、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム

生産概要（2019年度）

■取組面積

有機農業取組面積：207ha

うち有機JAS取得面積：116ha

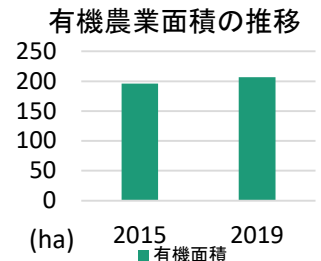
■有機農業者数：75名

■栽培品目：水稻、大豆、そば、ハトムギ

野菜（サトイモ、キャベツ他）等

成果（2015年→2019年）

・有機農業面積の拡大：196ha（2015年）→207ha（2019年）



取組のポイント（取組期間：2016年～）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物及びエコ農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■有機農業面積等の増加や栽培技術等の習得に向けた取組

- ・BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催。
- ・除草技術等の機械メーカー協力のもと農業機械研修会を開催。



栽培研修会（BLOF理論）

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業やエコ農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県内のスーパーと連携し、有機栽培ほ場での生き物調査や収穫体験等の体験型イベントを開催。
- ・県民向けの食イベントに特設ブースを設置し、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。

■産地販売力・育成力を強化するための取組

- ・学校給食への有機農産物の導入に向けて先進地導入事例を学ぶための研修会を実施。
- ・有機農産物を取り扱う外食事業者や卸売事業者と意見交換会を実施。



生き物調査



協議会活動を通じて、
富山県の有機農業・エコ農業
を推進します。

問い合わせ先：
富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係
076-444-8292

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

11 知多の恵み（愛知県武豊町・美浜町・南知多町）

協議会の構成員

株式会社太田農園、黒田農園、杉浦農園、つなぐ農園、ぶっチャ農園、大岩農園
chiiai farm、ささき農園、ベジーン、あおき農園、大矢農園、生協連合会アイチョイス

生産概要（2019年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：6.3ha
- 有機農業者数：11名
- 栽培品目：サニーレタス、大根、人参、里芋等
- 有機農産物の生産量：14トン
- 構成員の主な取引先：生協連合会アイチョイス

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業者数の増加： 7名（2018年）→11名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：5.3ha（2018年）→6.3ha（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・地域課題である田畑転換の実現を目指し、BLOF理論に基づいての研修を通年（年2回）開催し、新規就農者が4名定着・増加。
土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■地域資材の有効活用

- ・地域の酒蔵の酒粕を生産資材として有効活用することを模索し、循環型農業実現へ向けて試験的な取り組みを行った。



BLOF理論 栽培研修会の様子

一言アピール！

知多半島を有機農業の一大産地に！！
知多の恵みは新たな仲間を常に募集しています！



問い合わせ先
知多の恵みG事務局 杉浦
0569-82-0401

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

12 ニューファーマーズBLOF生産者協議会

(三重県四日市市・鈴鹿市・三重郡菰野町・三重郡川越町)

協議会の構成員

BLOF理論実践農家21名、四日市市、三重県など

生産概要 (2019年度)

■取組面積

有機農業取組面積：1.31ha

■栽培品目：トマト、ニンジン、茶等

■構成員の主な取引先：スーパー、契約販売、直売所等※
※構成員それぞれによる

成果 (2018年→2019年)

- ・2019年に新たに1名が有機農業を開始。
- ・有機農業の取組面積の拡大：0.85ha（2018年）→1.31ha（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機農産物の安定生産に向けた取組

・新規参入者等については、気候変動・病害虫の発生による減収など、生産面で不安定な部分があった。そこで、協議会の活動として、有機農業の専門家を招聘し、品目を横断した多収技術の勉強会や土壌分析会、施肥設計検討会を**年27回**開催し、有機農業技術の定着を目指す取組を行った。

また、緑肥・土壌分析の結果を活用した栽培マニュアルを作成し、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■流通・販売の拡大に向けた取組

・有機農産物の販売拡大に向け、慣行農産物との差別化が課題となっていた。そこで、販売に関する勉強会を開催し、オーガニックプロデューサーによる講演やバイヤーとの交渉演習、個別相談会などの取組を行った。また先進地視察による実需者ニーズの把握を通じ、販売力の向上を図った。



販売方法の勉強会の様子



一言アピール！

味・品質にこだわってつくった美味しい農産物を生産しています。地元の直売所で販売しておりますので、ぜひご賞味ください！

問い合わせ先
ニューファーマーズBLOF生産者
協議会 059-352-0638

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

13 京都オーガニックアクション協議会（京都府および周辺）

協議会の構成員

京都市周辺の生産者、流通業者、飲食店、学術関係者ら
（369商店、坂ノ途中、アスカ有機農園、ワンドロップ、へんこ、
かみむら農園、中川自然農園、音吹畑、梅本自然農園ほか）

生産概要（R1年度）

■取組面積

有機農業取組面積：60.7 ha（うち有機JAS取得面積：11.8 ha）

■有機農業者数：52名

■栽培品目：万願寺とうがらし、米、ネギ、黒豆など

■生産量：108 ton

Farmoを活用した受発注データ共有

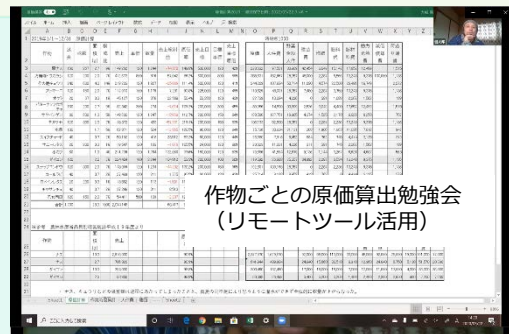


成果（R1年度末）

- ・本事業取組生産者数： H30年度末 **34** 名 → R1年度末 **52** 名（53%増）
- ・有機農業面積の拡大： H30年度末 **55.7** ha → R1年度末 **60.7** ha（9%増）
- ・有機農産物の販売額： H30年度末 **4479** 万円 → R1年度末 **5079** 万円（13%増）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

- ・共同物流便運行と農産物生産販売計画・取引データの共有
- ・生産者／実需者の意見交換会および相互訪問
- ・地域の生産者・実需者を巻き込んだ作付検討会の開催
- ・生産者対象の生産技術・経営技術に関わる研修会実施
- ・少量多品目農業者の生産コスト～品目ごとの適正価格算出の支援



作物ごとの原価算出勉強会
（リモートツール活用）

京都周辺の比較的小規模の生産者・実需者らが集まり、
生産・販売・物流に関する情報を共有。
周年供給体制構築に向けた「作付検討会」を2回開催。

意見交換会、相互見学会、意向調査などを実施（9回）
地域内外における新たな取引につなげている。

生産技術や経営スキル向上を図る勉強会等を5回開催



地域内流通を支えるコミュニティづくり

持続可能な社会を目指す生産者、流通業者らが集まって
知恵を出し合いながら、新しい流通の仕組みづくりに
取り組んでいます！ 全国各地の皆さんも連携しませんか？

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

14 兵庫オーガニックアクション協議会（兵庫県）

協議会の構成員

兵庫県及びその周辺地域の生産者、流通業者、就農希望者 合計34事業者（法人・個人）
（丹波篠山市、丹波市、多可郡、朝来市、三田市、神戸市、洲本市、芦屋市、西宮市、佐用郡、姫路市）

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：43.92ha
うち有機JAS取得面積：36.46ha
- 有機農業者数：24名
- 栽培品目：水稻、黒大豆、玉ねぎ、人参 他
- 有機農産物の生産量：387トン
- 構成員の主な取引先：20箇所
（生協、スーパー、宅配事業者、レストラン）

成果（2019年→2022年）

- ・有機農業者数の増加：24名（2019年）→40名（2022年見込み）
- ・有機農業面積の拡大：43.92ha（2019年）→62.18ha（2022年見込み）
- ・有機農産物の販売額：14,456万円（2019年）→20,653万円（2022年見込み）



取組のポイント（取組期間：2019年～）

- 圃場の有機への転換について
・微生物資材を活用した堆肥及び、微生物活性資材などを使用する事で、土壌の活性化をはかることができることがわかった。
- 栽培技術の向上について
・海外の有機栽培技術や経営技術について、日本でも有効な事が多く今期の栽培に活かしている。また、勉強会（8回）を通じて、農業者間のネットワークが増え、情報交換や栽培課題の相談などができるようになった。
- 作付け情報の共有
・コロナの影響もあり、より良い食への期待の高まりを感じられ有機農産物の引き合いが増えている中、作付け情報の取りまとめを行った事で、生産者及び農産物の紹介が可能になった。



HYOGO
ORGANIC
ACTION

ボーダレスでグローバルな連携を目指す！
農法、行政区画を超えた連携により、
より良い生産技術・経営技術・バリュー
チェーンの構築を目指してます！

問い合わせ先
兵庫オーガニックアクション協議会
hyogooa@gmail.com

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

15 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

赤城節子、池上義貴、小笠原徹、金谷智之、高本知宜、小池潤、小寺正幸、佐伯昌昭、田坂久美子、田中勇磨、田村義文、戸田光史、坪井良尚、東純平、古村剛、前田陽一、馬杉秀昭、村上彰、森田守、吉田昭（50音順） <構成員の所属等> 朝来市、生活協同組合コープ自然派兵庫、株式会社コープ有機、一般社団法人オーガニック認証センター

生産概要（2020年5月）

■取組面積

有機農業取組面積：24ha

うち有機JAS取得面積：9ha

■有機農業者数：7名

■栽培品目：米、大豆、人参、ズッキーニ、カボチャ、玉ねぎ、かぶ、ほうれん草、小松菜、ピーマン、水菜、トマト、春菊、レタス等

■構成員の主な取引先：3箇所
（生協、直売所、レストラン）

成果（2019年→2020年）

- ・有機農業者数の増加：6名（2019年）→7名（2020年）
- ・有機農業面積の拡大：23ha（2019年）→41ha（2020年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

・新規参入者の課題であった有機農業の栽培技術について、BLOF理論の講習会を年に4回実施（※）することで新規参入者が1名定着・増加。講習会において生産者からの様々な実践的課題に対して講師から丁寧な説明を受け新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

※ 小祝政明氏の提唱している、科学的・理論的に有機農業を進める再現可能な農法のBLOF理論に関する栽培技術講習会を年4回開催。

- ① 太陽熱養生処理を用いた団粒形成と各地の実践事例の紹介
- ② 作物生理に基づいたアミノ酸の供給
- ③ 微生物と水溶性炭水化物の供給
- ④ 土壌分析に基づいた施肥設計

問い合わせ先
神戸オーガニック・エコ農業推進協議会
事務局 078-939-7650

〔近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722〕

16 神戸有機農業者CSA推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

株式会社ナチュラリズム代表	大皿一寿	生産者	あぐりしあ代表	加藤正樹	生産者
株式会社ナチュラリズム	大皿純子	生産者	神戸市経済観光局農政部農水産課 課長	山田隆大	市町村
谷下農園・代表	谷下恵次	生産者	神戸農業改良普及センター 経営課長	八田 晃一	都道府県
fresco fresco 代表	丸山倫寛	生産者			
なちゅらすふあーむ代表	石野武	生産者			
桶谷農園代表	桶谷光弘	生産者			

生産概要（2020年4月）

- 取組面積
有機農業取組面積：4.85ha
うち有機JAS取得面積：1.85ha
- 有機農業者数：7名
- CSA会員数個人31名、企業1社
- CSA販売実績：2,500,000円
- 新しい品目：ビール麦 500kg

成果（2019年→2022年）

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名（2019年）→4名（2022年）※見込み
- ・ 有機農業面積の拡大：4.8ha（2019年）→6.8ha（2022年）※見込み

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 神戸市内の耕作放棄地の解消と農業者減少を有機農業で解決するビジョンを掲げ、技術向上セミナーを年に2回開催すると共に大麦の栽培を新たに実験し有機農業の経営基盤の向上を図った。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者を交え、有機農業の販売方法（CSA）の拡大を目指し、CSAの事例セミナーの開催や、一定数の参加を見込める企業内での野菜流通の実験を行い販売数の確保に至った。



一言アピール！

CSAは今後の有機農業拡大のキーワードだと思います。興味がある方はお問合せください

問い合わせ先
神戸有機農業者CSA推進協議会
090-8934-6611

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

17 丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県丹波市）

協議会の構成員

丹波市有機農業研究会、丹波ひかみ農業協同組合、丹波市役所
【アドバイザー】日本有機農業普及協会 代表理事 小祝 政明

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：154ha
うち有機JAS取得面積：55ha
- 有機農業者数：148名
- 栽培品目：水稻、黒豆、小豆等
- 有機農産物の生産量：500トン
- 構成員の主な取引先：20箇所以上
（例：大手米穀商社 生協 ネット通販）

成果（2019年→2020年）

- ・有機農業者数の増加：67戸 → 69戸
- ・有機農業面積の拡大：146ha → 154ha
- ・有機農産物の販売額：1億4700万円 → 1億9100万円



取組のポイント（取組期間：2019年～）

- 付加価値をつけた有機農産物の普及
有機農産物の普及において、「農薬を使っていないから見た目が悪くてもOK」といった概念を地域内で広める為、高品質でかつ高栄養価の有機野菜づくりにつとめて、流通においてお客さまから指名いただけるような栽培を目指す。**定期的に行う栽培勉強会**において**モデル圃場を設け、実地研修・共同勉強会**を開催する事で、産地としての農作物の品質レベルの向上を図っている。

- 流通・販売の拡大に向けた取組
高品質で栄養価の高い農作物を求める実需者のニーズを把握するため、8月におこなわれた**オーガニックライフスタイルEXPO等に出展し、新規顧客獲得**につなげた。



一言アピール！

年々、栽培技術は向上しています。更に、地域に広がるよう、自主勉強会も実施しています。

問い合わせ先
丹波市有機の里づくり推進協議会
丹波市産業経済部農業振興課
0795-88-5028

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

18 多可町有機農業推進協議会（兵庫県多可郡）

協議会の構成員

会長	藤本勝巳
副会長	吉田継夫
副会長	中尾和義（会計／事務局長）
学識識経験者	笹倉 剛 神戸親和女子大学教授
実需者	藤井英延 株式会社まちの駅たか施設長
実需者	岡崎智康 Chat t a n a の森代表

生産概要（2019年8月）

- 取組面積
有機農業取組面積：3.3ha
うち有機JAS取得面積：0.4ha
- 有機農業者数：28名
- 栽培品目：山田錦、ニンニク
- 有機農産物の生産量：山田錦12000kg
- 構成員の主な取引先：3箇所
（JAみのり、地元近隣酒蔵など）

成果（2019年→2020年）

- ・ 有機農業者数の増加：25名（2019年）→28名（2020年）
- ・ 有機農業面積の拡大：2.9ha（2019年）→3.5ha（2020年）
- ・ 有機農産物の販売額：670万円（2019年）→700万円（2020年）



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 2019年の取り組み

- ・ 「有機農産物安定供給体制構築事業」に初めて申込んだ。他の組織との連携も出来るようになり、今まで知りえなかった情報も入手ができて刺激的であった。
- それらの情報を会員に伝達することで全体的な生産意欲が向上した。
- ・ 若者の新規加入者が3名増えた。

■ 今後の取り組み

- ・ 学校給食への有機野菜の提供ができる組織作り
- ・ 山田錦発祥の町多可町の山田錦を有機で作る取り組みの拡大
- ・ 組織の若返りを図ること、若者の集いを増やすこと。



まだまだ小さい組織です。この町で出来た有機野菜を学校給食として届けたい。そんな町づくりをしたいという思いで始めた組織です。頑張っています。

問い合わせ先
多可町有機農業推進協議会協議会
事務局 080-2506-0905 中尾

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

19 笠形地域づくり協議会（兵庫県神崎郡市川町）

協議会の構成員

市川町上牛尾地区の有機農家さんと地元の方々

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：9.34ha
- 栽培品目：白菜、大根 ネギ、トウモロコシ等
- 有機農産物の生産量：1トン
- 構成員の主な取引先：2箇所
（旬彩蔵、スーパー）
- 有機農業者数：6名

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業者数の増加：4名（2018年）→6名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：8.54ha（2018年）→9.34ha（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■栽培技術力・経営力向上のための取組

- ・新規参入者のための圃場勉強会を年に5回実施することで、栽培技術力向上を図った。

■安定供給体制構築のための取組

- ・協議会が栽培する野菜をもとに、値頃感を追求した「売れる製品」の開発を目指し、笠形しょうがジンジャエールの試作を行った。2020年度に製品化を行う予定。

一言アピール！

安心安全にこだわってつくった美味しい野菜
たちは、ヤマダストアで販売しております。
ぜひご賞味ください！

問い合わせ先
笠形地域づくり協議会

0790-27-9292

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



20 那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県紀の川市・岩出市）

協議会の構成員

（株）ビオランド紀ノ川、農業生産法人バイオ・ランド、紀州やさい、紀州農レンジャー、紀の川市環境保全型農業グループ、和歌山有機認証協議会、和歌山県有機農業生産者懇話会、紀ノ川農業協同組合、紀の里農業協同組合、紀の川市、岩出市、和歌山県那賀振興局農業水産振興課

生産概要（2020年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：18.8ha
うち有機JAS取得面積：15.59ha

■有機農業者数：32名

■栽培品目：タマネギ、水稻、キウイ等

■有機農産物の生産量：555トン

■構成員の主な取引先：10箇所

成果（2015年→2019年）

- ・有機農業実践者の増加：
26名（2015年）→32名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：
13ha（2015年）→18.8ha（2019年）
- ・有機農産物（JAS）の生産量：
265t（2015年）→511t（2019年）

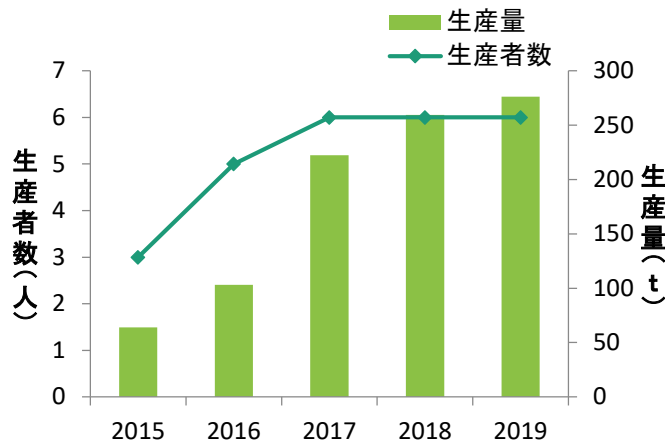


図 タマネギ〔有機JAS〕生産の推移

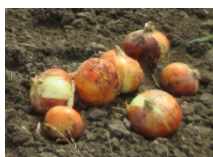
取組のポイント（取組期間：2019年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・新規参入者への技術習得として、ブロッコリーの栽培研修会を年に9回実施したところ、延べ6名の参加があり、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の意欲の向上につなげることができた。
- ・有機農業への新規参入間口を広げるため、農業者に加え福祉事業関係者を招き農福連携の取組についての研修会を開催したところ、新たな取り組みへのきっかけを提供することができた。

■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・実需者のニーズを把握するため、東京都内において、2月に意向調査を実施し、和歌山の有機農産物を首都圏へ売り込む方法についての意見交換を行うことができた。



一言アピール！

農業を通じてみんなを元気に、環境と人に優しい農業に取り組んでいます。この機会にぜひ一度手に取ってみて下さい！

問い合わせ先
那賀地方有機農業推進協議会
0736-61-0025（県那賀振興局・直通）

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

21 小松島市生物多様性農業推進協議会（徳島県小松島市）

協議会の構成員

生産者、実需者、徳島県、小松島市ほか

生産概要（2019年度）

■取組面積

有機農業取組面積：39.30ha

うち有機JAS取得面積：0.96ha

■有機農業者数：36名

■栽培品目：水稻、タケノコ等

■構成員の主な取引先：生協、スーパー、
産直市等

成果（2019年度）

○新規参入農家の育成支援を実施

- ・有機栽培技術講習会を実施（4回）
- ・日本有機農業普及協会
栄養価コンテストに出品（7検体）



↑栄養価コンテストに出
品を行った農産物

↓講習会の様子



取組のポイント（取組期間：2016年～）

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・とくしま有機農業サポートセンターと共同した、
新規参入者向けの相談窓口を新農業人フェアにて実施。
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・BLOF理論（生態系調和型農業理論）の講習会を実施し、
生産者の技術向上及び取組面積の増加につなげる
ことができた。
- 消費者の理解増進に向けた取組
 - ・オーガニックエコフェスタにおいて、技術者間交流と
消費者へのPR活動を実施。

→栽培技術講 習会の様子



←オーガニック エコフェスタ の様子

一言アピール！

本協議会では、生物多様性の視点を生産環境に
取り入れる農業を志向しています。

問い合わせ先
小松島市生物多様性農業推進協議会
0885-34-9292

中国四国農政局生産技術環境課
086-224-4511



22 高知オーガニック（高知県高知市、本山町ほか）

協議会の構成員

NPO法人高知県有機農業研究会、株式会社土佐山田ショッピングセンター、株式会社四国シジシー、末広ショッピングセンター、NPO法人オーガニックスタイルこうち、高知かねた青果、株式会社山下農園、りぐるVege、や農園、キセツノオヤサイ葉屋、四万十オーガニック、ケンタロウファーム、素農人ほか

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：13.9ha
うち有機JAS取得面積：1.3ha
- 有機農業者数：12名
- 栽培品目：ショウガ、トマト、ニンジン、水稻等
- 有機農産物の生産量：140.4トン
- 構成員の主な取引先：スーパー、産直市場、飲食店

成果（2018年→2019年）

- ・有機農業者数の増加：7名（2018年）→12名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：7.9ha（2018年）→13.9ha（2019年）
- ・有機農産物の販売額：3,250万円（2018年）→3,790万円（2019年）

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■栽培技術力・経営力向上に向けた取組

- ・新規参入者向けの研修ほ場を1箇所設置するとともに、3箇所（稲作・野菜）の実習ほ場を活用した栽培技術の講習会を4回、栽培技術・経営力の向上や有機JAS認証制度の理解増進に資する研修会を8回、ほ場の土づくりのための技術実証を1回開催した。これにより新たに有機農業者（構成員）が5名増加した。

■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・実需者と生産者の意見交換会を6回、栽培品目等の調整を行うための会議を4回開催するとともに、県内スーパーにおいて実需者等の意向把握・需要量の調査を行った。これにより令和2年5月、スーパー（15店舗）で“高知オーガニック”専用の販売コーナーが新たに設置された。
- ・11月の「わっしょいマルシェ」と1月の「高知オーガニックフェスタ」に出展を行い、「高知オーガニック」の取組を広く消費者等にPRすることができた。



わっしょいマルシェ



一言アピール！

高知オーガニックです。私たちの作った“自然の味”をぜひご賞味ください！

問い合わせ先
高知オーガニック
090-4977-1228

中国四国農政局生産部生産技術環境課
086-224-4511

23 南島原市有機農業推進協議会（長崎県南島原市）

協議会の構成員

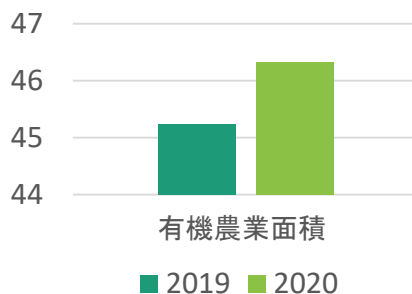
（農）ながさき南部生産組合、長崎有機農業研究会、（農）供給センター長崎
生活協同組合ララコープ、長崎県島原振興局農林水産部、南島原市農林課

生産概要（2020年4月）

- 取組面積
有機農業取組面積：46.32ha
うち有機JAS取得面積：12.17ha
- 栽培品目：ばれいしょ、たまねぎ等
- 有機農産物の生産量：1008トン
- 有機農業者数：57名
- 構成員の主な取引先：生協、宅配サービス

成果（2019年→2020年）

- ・有機農業面積の拡大： 45.24ha（2019年）
→ 46.32ha（2020年）
- ・有機農産物の販売額： 21,434万円（2019年）
→ 23,675万円（2020年）



取組のポイント（取組期間：2019年～）

■栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・有機農業総合研修大会を実施し、有機農業の土づくりに関しての講習会を行った。
また、新規就農者や消費者へ周知にも参加を呼びかけ、有機農業への理解促進を図った。
- ・実証ほの実施により、玉葱の分球についての調査を行った。

■安定供給体制構築のための取組

- ・有機農業先進地へ視察及び情報交換を行った。
- ・セミナーや有機JAS認証取得に向けての講習会に参加し
有機面積拡大のための取組に努めた



一言アピール！

南島原の肥沃な大地で育てられた有機野菜を
ぜひ一度ご賞味ください！

問い合わせ先
南島原市有機農業推進協議会
0957-73-6661

九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272

24 くもと有機農業推進協議会（熊本県）

協議会の構成員

熊本県有機農業研究会 人吉市有機農業推進協議会
宇城有機農業プロデュース 山都町有機農業協議会「Organic山都」部会
百草園 人吉市 宇城市 山都町 熊本県 JA熊本中央会

生産概要（2019年4月）

- 取組面積
有機農業取組面積： 51.6ha
うち有機JAS取得面積： 35.7ha
- 栽培品目： トマト、しょうが等
- 構成員の主な取引先：
農協 生協 年間契約 消費者等
- 有機農業者数： 30名

成果（2018年 → 2019年）

- ・有機農業の新規参入者の増加： **1名（2019年）**
- ・有機農業面積の拡大： 48.65ha（2018年） → **51.60ha（2019年）**

取組のポイント（取組期間：2016年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・科学的な根拠に基づいた土づくり技術・栽培技術、高品質高栄養価・多収穫栽培の実際を学ぶ**農業技術セミナーの開催**により、新たに有機農業を目指す農業者への意識啓発を図った。



■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・有機農業に取り組む新規就農者の販路拡大に向け、県内の実需者とのマッチングを目的としたNewファーマーズオーガニックマルシェを開催した。



一言アピール！

日本で最も有機農業者の多い山都町も加入した当協議会では、活動もより一層充実してきました！

問い合わせ先：

くもと有機農業推進協議会
事務局（熊本有機農業研究会 内）
096-223-6771

九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272



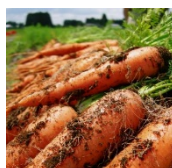
25 宮崎県有機農業連絡協議会（宮崎県）

協議会の構成員

- ・ 有限会社松井農園
- ・ 小浦製茶
- ・ 株式会社かぐらの里
- ・ 宮崎県経済農業協同組合連合会
- ・ 綾町
- ・ 高鍋町
- ・ 木城町
- ・ 宮崎県

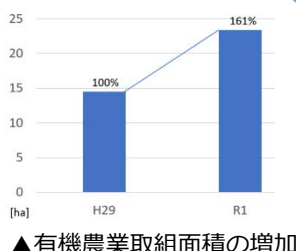
生産概要（2020年3月）

- 有機農業者数：32名（3団体）
- 栽培品目：野菜、茶、ゆず、とうがらし 等
- 取組面積 27.3 ha
- 有機農業取組面積：23.4 ha
- うち有機JAS取得面積：14.5 ha



成果（2017年→2019年）

- ・ 有機農業取組面積の拡大：
14.5 ha（H29）⇒ 23.4 ha（R1）
- ・ 県内全域を対象とした研修会の開催：
3回
- ・ 優良事例を基にした有機農業技術
事例集の作成



一言アピール！

県内の有機農業者のネットワークの拡大や有機農業技術の普及・推進を、会員一丸となり進めていきます。

取組のポイント（取組期間：2018年～）

- 有機農業者間のネットワークの強化
 - ・ 県内の有機農業者を対象に、意見交換会や、品目ごとの技術研修会を開催。
 - ・ 農業者間の情報交換の場を創出。
- 有機農業技術の実証・調査
 - ・ 会員のほ場を用いて、有機農業技術の実証や調査を行い、技術等の効果を確認。
 - ・ 有機農業技術の評価や検証に寄与。
- 優良事例の横展開
 - ・ 会員の有機農業者の栽培について調査を行い有機農業技術事例集として取りまとめ。
 - ・ 科学的根拠に基づく、有機農業技術の普及に寄与。



▲品目別研修会の様子



▲実証ほ場での現地検討



▲作成した事例集



問い合わせ先
宮崎県有機農業連絡協議会事務局
0985-26-7126

九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272

26 かごしま有機農業推進協議会（鹿児島県鹿児島市・姶良市・南さつま市）

協議会の構成員

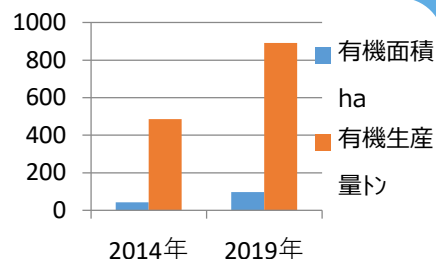
鹿児島市、姶良市、南さつま市、NPO法人鹿児島県有機農業協会、生活協同組合コープかごしま、(株)エム・オー・エー商事九州販売、(有)かごしま有機生産組合、あいら有機部会

生産概要（2020年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：97ha
うち有機JAS取得面積：95ha
- 栽培品目：水稻、玉ねぎ、人参 等
- 有機農産物の生産量：892トン
- 構成員の主な取引先：260箇所
(生協、スーパー、小売店 等)
- 有機農業者数：104名（当初48名）

成果（2014年→2019年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：11名（2019年）
- ・有機農業面積の拡大：43ha（2014年）→97ha（2019年）
- ・有機農産物の生産量：485トン（2014年）→892トン（2019年）
- ・有機農産物の取引先：152箇所（2014年）→260箇所（2019年）



取組のポイント（取組期間：2014年～）

■栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・研修圃場を3圃場設置し、技術講習会の開催、コスト削減・改善取組として土壌分析を実施、及び「有機農業フォーラム」を2回開催し、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性・経営力の向上につなげた。

■安定供給体制構築のための取組

- ・栽培品目・生産量の調整のために5ヶ所にて意見交換会開催、また、実需者のニーズを把握のため東京・大阪・千葉の3ヶ所にて実施、推進協議会活動パンフレットを作製し有機農産物の販売に結びつけた。



一言アピール！

日々圃場での研修を行ないみな様に安心な有機野菜のお届けを心掛けています。

問い合わせ先：

かごしま有機農業推進協議会

事務局 099-282-6867

九州農政局生産部生産技術環境課

096-300-6272

